

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (1号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた環境の中で入居者様がこれまで当然のように行ってこられた事、楽しみにされてきた事を大切に、四季折々の企画や行事を通してゆったりとした時間、生活を送って頂けるように心掛けている。またここ数年職員の入れ替えもほとんどなく、経験豊かな職員構成になっており落ち着いた雰囲気の中で生活を送って頂いている。一方で経験則による画一的な類型分けを行ってしまわない様に留意している。性格、生活環境、家族環境、抱えてみえる想いや願いの個別化し、人に寄り添うという事は常にその人の側において味方であり続ける事であると念頭においた介護に努めている。入居者様のいきいきとした顔を御家族様にも見て頂き入所してよかったですと御家族様も笑顔になれるようなグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は穏やかでゆったりとした時間が流れており、人間関係の良さがうかがえる。利用者が楽しめる支援を目指しており、回想法で利用者へ昔の話を話してもらったり、幼児や小・中学生を受入れ、利用者へ触れ合ってもらっている。予約バスを活用して花見や紅葉狩りに出かけることも利用者の楽しみとなっている。
地域の民生委員が年1回草刈りとガラス拭きを実施したり、お祭りの山車がホームに立ち寄りたりしており、ボランティアが頻繁に来訪する等、地域との関係は良好である。市の山間部の今後についての会議(「山間部を元気にする今後を考える会」)等にも積極的に参加し、グループホームとしての意見や問題点について話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目指すべき理念がホーム内にも掲示してあり職員が常に意識出来る環境となっている。会議等でも取り上げ理念の持つ意義、重要性への認識を深め日々のケアへ反映されるように心掛けている。	いつでも目に入るように、ホームの玄関に理念を掲げている。ミーティング等で話し合ったり、気が付いた時には職員に伝えたりして、意識付けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治区の方々の配慮もあり秋祭りの際はホームを山車の通過ルートにして頂き太鼓の演舞も披露して頂いた。また小、中学生の来館や、地域住民の方々との合同救命講習も恒例となっております。地域に身近な存在となりつつある。	今年より管理者が地域の推進委員会の役員になり、地域の理解が益々深まっている。中学生のボランティア体験隊や小学生の体験学習を受け入れ、地域のボランティアグループの来訪も恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元ボランティア様、地元小学校等積極的に来館を受け入れホームの現状を伝えている。また実際に同じ時間を過ごして頂く事で認知症の方々への理解を深め、二次的な情報の発信源になって頂けるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや現状について様々な視点より意見、評価を頂き今後の運営に活かせるように努めている。また貴重な情報収集の場ともなっており新たな試みを生み出す機会ともなっている。	毎回ホームの活動や利用者の様子を伝え、地域包括支援センターの活動についても説明を受けている。今年度は防災についての話し合いが多く、もしもの時の地域との連携について話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員との情報交換、サービス向上連絡会への積極的な参加等、市町村との連携にも努めている。	介護相談員が毎月訪れ、利用者に関わった際の気付きを報告してもらっている。市町村主催の研修には出来る限り参加し、「山間部を元気にする今後を考える会」にも積極的に出席し、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須の研修項目として毎年必ず研修を行っている。身体拘束禁止への意識は高く、後に拘束に繋がりがかねない案件に於いては未然に職員間で話し合いを行い入居者様の個を大切にすることを確認し合っている。	本部の研修が必ずあり、職員は身体拘束の弊害について理解をしている。カンファレンスで拘束の事例を挙げて意識し合い、お互いに注意し合っている。スピーチロックを見たり聞いたりした場合は、その都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しての研修も毎年必ず開催されている。職員が知識と意識を持ち、些細な事案でもそのまま見過ごされる事が無いような環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する分野の知識は一部職員の理解にとどまっている。制度普及の拡大とニーズの多様化を現実に実感しており早急に対応すべき課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より十分な説明を行い同意が得られたうえで契約を締結している。不安点や疑問点にはその都度理解、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員が気軽に話し掛け、相談出来る存在である様に意識している。支援の方向性やサービスの内容の決定についても率直な想いや願望を反映出来るように努めている。	家族の来訪の折には、必ず意見や要望を聞くよう心がけている。家族会は年2回実施され、今年は消防隊員に来てもらい、防災についての話をしてもらった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が毎月開催され自由に意見が述べられる様になっている。また本部にも相談窓口が設置されており誰でも自由に使用が可能となっている。	月1回の職員会議やユニット会議で意見交換し、各ユニットの統一を図っている。会議での意見は、管理者から地域責任者に伝わり、運営に反映している。「情報室ホットライン」で、直接本部へ意見を伝えることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の受講や資格の取得が給与に反映される仕組みになっている。各自の努力や向上心が評価される環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを掲げた研修を毎月施設にて必ず開催している。また市主催の研修会や病院主催の勉強会、有識者の講演等にも積極的に参加し得られた情報も全職員が共有出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当グループ内に於ける他施設との交流は確保されているが社外の同業者に於いては積極的に交流がなされていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日頃の何気ない会話のやりとりやふいに現れる表情にも意識を向けている。表面的な事だけにとらわれず声にならない個々の想いを汲み取り安心して生活を送って頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の現状をただありのまま伝えるだけではなく今後予測される予後や対応についても話し合いを持ち御家族様の想いもサービスに反映されるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態だけではなく入居に至った過程や御家族様の近況にも目を向け総合的なニーズの把握に努めている。グループ運営の強みを活かし必要に応じたサービス利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の特性や性格を理解し出来る事には積極的に参加を頂く事で集団内での役割を持って頂けるように意識している。日頃より気さくに声を掛け何でも言い合えるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会が恒例になっており毎回多数の御家族様に出席頂いている。施設と御家族様との距離を縮め本音で意見を言い合えるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出には制約を設けておらず地元の方々も気軽に来館されている。地元の祭りの見学や地元の顔見知りのボランティアの方々も積極的に受け入れ地域に根ざした施設運営を心掛けている。	地域の利用者が多いため、馴染みの人が面会に来たり、ボランティアと一緒に訪ねて来ることもある。今まで通っていた理美容院へ出かたり、予約バスを利用して馴染みの場所へ出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団に於ける人間関係に配慮した対応を心掛けている。楽しいレクリエーション、会話になるよう職員が仲立ちを行ったり、入居者様同士のやりとりにもすぐには干渉せず一歩下がって温かい目で見守る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについての取り決めは特に設けていないが相談があった時は出来る限りの協力を惜しまず行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経験則によって利用者様を類型化してしまわないよう常に気を付けている。会話の内容や訴え、御家族からの情報等を職員で共有し思いに沿った生活を送って頂ける様に努めている。	散歩や日常の何気ない会話から利用者の思いを汲み取り、会話の出来ない人からは、態度やしぐさで表す思いを見逃さないようにしている。それらの情報は、申し送りノートや会議で報告して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントシートでの情報確認はもとより、信頼関係を深め本人の口より今迄の人生とその想いを語れるような環境作りを目指している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好きな事、出来る事、やってみたい事等を個別に把握し無理の無い範囲で取り組んで頂いている。裁縫、調理、畑仕事、雪かき等様々な事に参加をして頂いた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスに御本人様も参加頂き思いが反映されたプランの作成を心掛けている。また常日頃より御家族様との情報共有に努め今後予測される予後についても共通の認識が持てる様に努めている。	毎日の介護記録を基に、3ヶ月毎にモニタリングを行い、本人、家族の希望も組み入れた介護計画を年に一度作成している。遠方の家族には、電話で意見や要望を聞き取り、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録記入、通読を通し些細な変化を見逃さない様に留意している。また変化を認めた場合には個々に詳細記録を記入し新たなニーズの把握や今後の対応を協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	稲武ならではのこだわり朴葉寿司、五平餅、干し柿作りを皆で行ったり、シソの実やイタドリを調理してみたりと入居者様が今まで当たり前に行っていた事を重要視し柔軟な対応が取れる様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然を活かしてドライブや外食を通して四季を感じて頂いている。また地域の方々の御厚意もあり旬の野菜や果物を間近で手に取れる機会も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療もあり気軽に何でも相談出来る関係となっている。山間部で総合病院までは時間を要するが時間外でも緊急時は地元医師が駆け付けて下さる体制になっており安心した生活を送って頂いている。	かかりつけ医が、協力医である利用者が多く、往診もあることから、入居時に変更する人もいる。2か所の協力医は、情報を共有して連携を図っている。歯科、眼科等の専門医への受診は、基本的には家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も勤務しており医療的な事案についても相談する事が可能である。健康管理を行い未然に病気や怪我が防止出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の看護師やケースワーカー、また御家族との連絡も密に行い情報を共有すると共に状況の把握に努め、新たなニーズに対応したプランを作成し安心、安全な生活を提供できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については御本人、御家族の想いとホームにとって可能な事を踏まえて今後の方針を決定している。またグループ経営の強みを活かしニーズや希望に沿った施設選択も可能となっている。	今年度、主治医と家族、職員が話し合いを持ち、1名の看取りを行った。職員も納得のいく支援を行い、それが自信につながった。終末期の支援が出来る事業所として、医療体制を整え、家族会でも了承をもらい、申請を出す準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防団の協力もあり毎年救命講習、応急手当指導を行って頂いている。AEDの使用法、胸部圧迫訓練も行い緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難所である中学校との連携もあり実際に避難所までの移動訓練も行った。防災マニュアルも作成し避難行動に関する指針と情報が具体化された。	今年度は、通常の火災、地震以外に土砂災害を想定した避難訓練を行った。避難場所まで利用者と共に避難したことで、問題点分かり、今後に繋がる良い機会となった。家族会でも、防災講座を開いて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個として捉え、安易な決め付けによって一方的で画一的な支援になってしまわない様に心掛けている。個々の想いや性格の把握に常に気を配っている。	利用者を尊重する支援やプライバシーについて、職員は社内研修を受講して十分に理解している。画一的ではなく、家庭的な雰囲気作りが出来るような親しみも大切と考え、一人ひとりに合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも自ら表出できるような雰囲気作りを常日頃より心掛けている。何気ない会話やしぐさ、表情よりもその方の本当の気持ちを読み取れる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のしたい事、楽しく感じる事を大切にそれぞれのペースで生活して頂いている。散歩、裁縫、折り紙、畑仕事、居室での休息等各々自由に時間を過ごして見える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地元の美容室、理容室の来館を頂きカットして頂いている。本人の趣味やセンスを尊重し好みの服を選んで頂いている。職員が和服を持ちより皆様に身に付けて頂いたところ皆様大変喜んで見えた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅や朴葉寿司、からすみ等地元で愛されるメニューも取り入れている。準備段階より入所者様の教えを請うたり助言を頂いたり一体感を大事にしている。また食器拭きや調理補助等個々に役割を担って頂いている。	年一度の嗜好調査を実施し、家庭的な食事が味わえる献立にしている。利用者も調理に加われるよう、朴葉寿司等の地元料理を大切にしている。特に、五平餅パーティーは、恒例となり利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録等の記録も参考に個々の摂取量と適量を把握している。既往歴や現況、本人の希望を考慮しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの持つ意義を職員は理解している。毎食後個々の状態に応じたケアを行っている。定期的な入れ歯の洗浄も行い口腔内の清潔に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛け等で個々の排泄リズムが確立されるように意識している。声に出して訴える事が出来ない入居者様に対しては所作の変化に目を配り適切なタイミングでの誘導を心掛けている。	自立した人が多く、昼間は便のみチェック表を付け、便秘への対策に繋げている。夜間は人感センサーで居室内の動きを知り、ポータブルトイレを使用したり、時間をみてトイレに誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作成、記録し現況や排便のリズムを把握出来るようにしている。適度の運動や水分摂取、ヨーグルトの提供等で便秘防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別なイベント等が無い限りは2日に1度は入浴して頂いている。入浴前にもバイタルチェックを行い安全かつ安心な入浴を提供している。	一日おきの入浴機会があり、ゆっくり入浴出来るように考えて予定を組んでいる。拒否のある人には無理強いせず、日にちや声掛け方法を変え、入浴を促すようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休息をとって頂いている。日中の適度な運動と精神的な平穏が安眠に繋がる事を職員は理解している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時や薬変更時は処方箋等確認し個々の状態の把握に努めている。服用の目的、用法、用量を正確に認識しセッティングから服用まで何重ものチェック体制を確立し誤薬の防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担ってこられた役割や自身の楽しみを継続して持ち続けていける様のように支援している。生活歴や御本人の状態を考慮し新たな役割や楽しみを持てるような提案も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉ドライブ等恒例となっている企画もあり楽しみにして下さっている入居者様も多い。また地元の地域バスのバス停も敷地内に設置して頂き各ユニット全員での外出も容易になっている。	市の予約バスのバス停が敷地内に設置され、花見や紅葉見物等に活用している。個別の外出支援として、スーパーマーケットへの買い物等にも出かけている。外食も、利用者の希望を取り入れて行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理は施設として行っているが習慣や希望により自身で管理されている方も見える。欲し物を職員に伝えたり、また一緒に買いに出掛けたりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話を使用している。また届いた手紙や荷物に関してすぐに御本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に於いては毎日定期的に複数回の清掃、消毒を行っており常に清潔が保たれるように努めている。季節に応じた掲示物を入居者様と作成し思い入れのある作品に囲まれながら生活して頂いている。また全館に掘りごたつを設置しゆったりとした気分で生活して頂いている。	広い共有空間の窓辺には、掘り炬燵が用意され、周りにはソファもあり、思い思いに過ごすことが出来る。ユニットごとに、貼り絵やぬり絵、切り絵等、利用者の好みで季節の飾り付けが施され、温かな雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係にも気を配り皆が楽しく過ごせる様に座席の位置にも配慮している。自然と全員が一体となれるような仲立ちを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より愛着ある馴染みの品を持参して頂けるようにお願いし、環境の変化によるダメージの軽減に努めている。また仏壇や神棚、写真や衣装タンス等自由な持ち込みにより習慣や、好みを尊重した各々の快適な空間となっている。	テレビやタンス等の使い慣れた物を持ち込み、それぞれの部屋作りをしている。ポータブルトイレを持ち込んでいる利用者もいる。家族の写真やプレゼントの品を飾り、安らげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーの空間になっており安全と行動しやすさが両立されている。日頃より自由に館内を移動して頂く事でホームを自宅の様に安心して過ごせる空間と感じて頂けるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (2号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた環境の中で入居様がこれまで当然のように行ってきた事、楽しみにされてきた事を大切に、四季折々の企画や行事を通してゆったりとした時間、生活を送って頂けるように心掛けています。またここ数年職員の入れ替えもほとんどなく、経験豊かな職員構成になっており落ち着いた雰囲気の中で生活を送って頂いている。一方で経験則による画一的な類型分けを行ってしまわない様に留意している。性格、生活環境、家族環境、抱えてみえる想いや願いの個別化し、人に寄り添うという事は常にその人の側において味方であり続ける事であると念頭においた介護に努めている。入居者様のいきいきとした顔を御家族様にも見て頂き入所してよかったですと御家族様も笑顔になれるようなグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関出入口に運営理念を掲げ、毎日再確認できるように意識づけしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々の配慮もあり、毎年お祭りの時に山車の通過ルートにして頂いており太鼓披露もして下さっている。災害時に、自治区役員の方への要請許可を頂いており、連携がとれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元のボランティア、小学生の慰問、中学生のボランティア体験隊の受け入れで、施設での生活を見て頂いている。家族会で包括支援センターと連携し、認知症講座等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状報告を出席して頂いた方々に話し、いろいろな視点より意見を頂いている。その意見を今後の行動、目標としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員、包括センター、社会福祉協議会と情報交換し、地域と連携強化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修等を通じて、職員に啓発し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	必須研修項目として、職員全員が毎年研修を受けていてご家族とも共有し、解放された環境づくりを心掛け、虐待防止に努めている。施設の目ざす介護サービスにも掲げて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については研修も行われておらず、一部の職員の理解にとどまっている。今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に管理者が十分な説明を行ったり、来館され見学などされ同意を得た上で契約を締結している。変更や改定がある場合も事前に書類で通知説明を行い承諾を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援の方向性を決定する際は、ご本人様ご家族様と率直な想いを話し合いサービスに反映させられるように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員から相談や意見に直ぐに聞く機会を設け、それを月1度の職員会議で話し合う事もある。また本部の相談窓口も設けられ、電話相談が行える環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、資格取得のため研修等に出かけ、勉強し取得したのちに、応じた手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回職員会議にてテーマに基づいた研修をし、市や病院主催の研修会に出席し、その内容を受講者が他の職員の前で発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会中は中々持っていないが、グループ内での交流、研修等は実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中などから本人の訴えや悩みなどに耳を傾け、安心できるような声掛けで寄り添い、本人のやりたいことや要望などプランを立てて信頼関係に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス等で家族の皆さんが不安に思っている事や要望等聞き、情報提供できるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入居する前に事前に情報を収集し、サービスを提供している。また、他の支援と連携し、サービスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員同士で連携し、安全面や利用者が過ごせる環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回、家族会を開催し、職員、利用者様、ご家族様それぞれが連携し交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方や馴染みの方々がいつでも来られるように支援しており、ボランティアを通じて地元ならではの交流ができている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの皆さんの不安、悩みなど相談にのっている。また、レクリエーションに参加する際に皆が楽しめるよう相談し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもできる限り協力させて貰っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様を個々に把握し、会話等から想い、希望に添えるように職員で努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に事前に情報収集をし、フェイスシート、アセスメントシートを作成している。また職員同士で情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のADL、残存能力など見極めるように努力をしている。また本人の出来ることをして頂き現状が維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをする際、本人にも参加して頂き、想いが反映されるプランの作成をしている。またご家族様とも情報共有し、現状に沿った計画の作成ができるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し、その日の様子、バイタルなど職員全員が確認している。また、わずかな変化も見落とさず、情報を共有し、プランの見直し等に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元であることから、その特色を生かし、ご平餅・朴葉寿司といった郷土料理作り等、今まで行ってきたことを重要視し柔軟な対応が取れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑を作ったり、地域の方々の協力での旬の食材や自然豊かな環境の中をドライブ・外食をして四季を感じて頂けるようにしている。小学生やボランティア様との交流もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診もあり、時間外でも緊急時は駆けつけて頂ける関係になっている。また、総合病院と地元医師との連携が確立されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しているので、個々の利用者様が適切な受診や看護が受けられるように近況を報告し、相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者やご家族様との連絡を密にし、状況と新たなニーズの把握に努め、病院相談員との意見や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の高齢化に伴い以前より経験・体験する機会が増加、また研修課題に組み込まれている為、職員の理解は高いと言える。ご本人・ご家族の想い、医師の見解をもとに職員も意見を出し話し合い方針を共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力で急変時の対応、AEDの使用方法等の訓練、指導を受けている。また、疑問点を職員間で解決し的確な行動がとれるよう技術と知識を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・土砂災害等、様々なケースの昼夜を問わず想定した避難訓練をしたり、地域の災害対策情報を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が利用者様の立場だったら、また自分の親だったらどうだろうと、考えてから言葉かけや対応をするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様各々の特徴や性格、日々の様子を把握したり、日常の会話の中で本人の希望が言いやすい環境になるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望・ペースに応じテレビ鑑賞・昼寝・散歩等各々一日を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容院・理容店より定期的に美容師・理容師の方に来館をお願いしている。入浴時、着替えをご本人に希望を確認してもらったり、一緒に準備する支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を取り入れ季節を感じて頂いたり、利用者様の状態や好みを考慮しメニューを考えている。また朴葉寿司や五平餅等の地元の伝統食をみんなで作って食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の習慣や嚥下の状態に応じたメニュー・食事形態を意識し提供している。食事・おやつ以外の時間でも状態に応じて水分摂取をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の口腔状態や本人の力量に応じたケアを実践している。また、定期的な入れ歯の洗浄消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な時間を目安にまず全員に声掛けをしている。介助が必要な方には本人の尿意の確認を取りトイレへ誘導し、出来る方には終了後にブザーで知らせて頂くようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前に腹部を「の」の字に回す体操をしたり、水分摂取を増やし排便を促している。排便が2～3日見られないリズムの方にはケアプランに支援として薬入し、主治医と連携を取り排泄リズムを整えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね2日に1度の入浴日を設け、入浴順も不公平なくローテーションをしている。洗身は出来る所は洗って頂き補助をしている。浴槽内からは本人の意思を確認してから上がって頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に眠れない方には昼間の活動を促し、夜間に眠れる様であれば昼寝をしたいという希望に応じ、支援に位置づけ休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常にカルテを確認して処方箋が変わる場合には申し送り帳や口頭で職員が把握出来るようにしている。症状変化時には書面に記入した物を主治医に渡し、詳しく報告し支持を仰げるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のフェイスシートやアセスメントシートから生活歴を把握したり、本人の意向を聞き個々に合わせたお手伝いやレクリエーションを促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分で外出したいと訴えられる方には他号館の職員と連携を取り、その方の行きたいところへ外出するように努めている。ご家族の面会時に可能であれば外出したいと希望のある方には協力して頂き、外出する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金は預らせて頂いているが、買いたいものがある方には本人と一緒に買い物に出掛ける機会を設けている。その場合も小口現金出納帳への記入をしてご家族様に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が利用者様へ直接連絡が取れる様に携帯電話を渡し、連絡を取っている方も見える。ご本人がご家族様と電話で話したいと要望があれば繋げる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者の方に適度な室温や太陽光線の刺激が無いか確認を取り、利用者様の目線に立つ様に心掛けている。季節の草花を花瓶に刺したり、季節に合わせた貼り絵をして頂き壁画にしたり、習字で季語を表し季節の変化が分かる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の殆どの時間はホールで自由に会話をしたり、他のユニットで知人と会話をしたい場所にも自由に行き来して時間を過ごして頂いている。居室でくつろぎたい方には自由に居室へ入り思い思いの時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの物を持参して頂き、本人が外出先で好みの物があれば、自由に居室へ持ち帰り過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常で、利用者様の多くが使用されているシルバーカーや歩行器・車椅子は個々のレベルで介助の必要な方には付き添い介助をして、ケアプランに導入し自立支援へ導いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家 (3号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成29年10月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた環境の中で入居様がこれまで当然のように行ってきた事、楽しみにされてきた事を大切に、四季折々の企画や行事を通してゆったりとした時間、生活を送って頂けるように心掛けている。またここ数年職員の入れ替えもほとんどなく、経験豊かな職員構成になっており落ち着いた雰囲気の中で生活を送って頂いている。一方で経験則による画一的な類型分けを行ってしまわない様に留意している。性格、生活環境、家族環境、抱えてみえる想いや願いの個別化し、人に寄り添うという事は常にその人の側において味方であり続ける事であると念頭においた介護に努めている。入居者様のいきいきとした顔を御家族様にも見て頂き入所してよかったですと御家族様も笑顔になれるようなグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に貼り、職員は各自理念を認識し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のお祭り当日、山車がホームに立ち寄って太鼓の披露をして下さったり、小学生が訪問して下さり交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会やボランティアに来て頂いた時等に、施設内の様子を見ていただいたり、利用様との会話を通じて理解を深めていただく機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や入居者様の代表ご家族様や地域包括センターの職員が参加しており、情報等頂きサービスの向上に生かすことができています。職員1名も参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとは、常に情報交換を行い、居室に空きが出た時等の相談受け入れなど協力し合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月様々なテーマに沿った研修があり、身体拘束についても職員は理解している。玄関の施錠も日中はせず行動の把握、見守り重視で対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修項目にも入っており、日々の観察や申し送りにより虐待が見過ごされることがない様な環境づくりを行っている。施設の目ざす介護サービスにも掲げて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については研修も行われておらず、一部職員の理解にとどまっている。後見制度等は将来の必要性も考慮し、今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に管理者が時間をかけて詳細に説明している。退居時や改正時にもその都度書面等による説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の言動や表情から想いをくみ取るように努めている。ご家族様へは手紙や面会時、電話により、その都度状態報告するとともに、疑問不安がないか聞き出している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議があり現場の状況や率直な意見が述べられるようになっている。また、本部の相談窓口も設けられており、気軽に電話相談が行える。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得や個々の努力に関して各自の努力や向上心が給与に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマに基づいた研修が実施されている。自ら調べ、学ぶ機会があり、受講後は受講者による発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流、研修等は実施されているが、社外の同業者との交流を持っていないのが現状であり、今後の課題にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の生活状況を知る為に訪問して面談している。安心してホームで過ごしていただけるように心がけ、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、要望をお聞きし安心して頂き、本人にとってどの様な支援が大切なのか話せるような関係づくりを務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は本人、ご家族様の思いを把握し緊急性の有無、他のサービスが適切か見極め提供している。常にニーズの変化話し合いそれに対応したケアを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の毎日の生活習慣を把握して、出来ることをして頂いたり、利用者様同士お互いに協力し合える場を作ったり、レクレーションで楽しくしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来館時には利用者様の様子をこまめに伝え、想いや要望を伺ったり、年2回の家族会で本人とご家族様との絆を深めてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のボランティアの方々の受け入れで、顔なじみの方とのお話ができたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や、相性など把握して孤立されないよう中間に入り、気持ち良く関わりが持てるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に連絡を取り合うことはないが、移動先の施設や病院には赴くことがある。また、相談があればその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人の話を聞いて、話の中から想いをくみ取り、希望・意向の把握をし、沿うようにしている。聞き取り困難な方に対しては、家族の意見を聞いたりして本人本意のケアにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を収集し、一人ひとり個別に綴り、全職員が把握するように努めている。入居後には、本人とご家族様とも交流を通して情報を具現化するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの残存機能の維持向上に努め、日々介護記録を記入し、生活状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を尊重し、カンファレンスを行い、プラン作成している。作成後も定期的にモニタリングを実施して、実践と評価について検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・飲水・服薬の有無、バイタル昼夜の様子等、介護記録に記入し職員同士情報を共有しながら、実践、介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では施設外のサービスは利用できていない。ニーズに対しては可能な限りの支援はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春は桜、秋は紅葉ドライブや地域のお祭りの山車や太鼓を見学したり、日々の散歩で四季を感じて頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医師の診察や往診を受けられ相談もでき適切な医療も受けられる。また、総合病院との連携もできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が勤務しており、利用者様の個々の相談ができ、アドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は管理者が頻回に見舞うようにし、医師や家族と話し、状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と管理者、職員で話し合い、その方にとって一番良い方針を見つけ、共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、基本の蘇生法・ADLの使用方法・応急手当等の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の避難訓練は、頻回に行っている。今年度は、土砂災害時の避難訓練を利用者様も参加し行った。避難場所の確認等も行うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、全職員が意識し、記録や個人情報は外部に漏らさないよう徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が想いを表せるよう声掛けし見守って自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調やペースに合わせて、散歩をしたり、趣味をして頂くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装ができるように服の入れ替えや、地元の美容師の方に来て頂き、カットして頂く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一度、嗜好調査を行い、好みの食事の提供支援や、できる方は食器拭きができる支援をしている。季節を感じられる献立を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は手作りでバランスの取れたものを提供し、おやつ・食事時は必ず水分もとって頂いている。食事形態も一人ひとりに合うように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや支援を行っている。義歯の方は週1回のポリデント洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自己のペースで排泄されている方も見えるが、出来ない方は、定期的に声掛けをしたり、動きを見て誘導する支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作り、記録し近況を常に把握しながら対応し、毎日ヨーグルトを食べて頂いたり水分をしっかりとって頂き便秘予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別なことがない限り、一日おきに入浴して頂いている。事前に意思確認、バイタル測定を行い、安全に入浴して頂けるように心がけている。体調や状況によって清拭し清潔を保持して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルや体調に配慮し、個々のペースで生活して頂いている。日中の活動はもとより、不安を解消し、精神的に平穏して安眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に現在の状況を確認し、服薬の目的、用法、用量をしっかりと把握している。セッティングから服薬するまでに何度もチェックするようにし、誤薬しないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみなど、ごく普通にやってくれた作業をホームでもありふれた1コマとして行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春はお花見、秋は紅葉を見にドライブに出かけ、シルバーカーや車いすなどの運搬専用の車両も手配した。個々でも、近くのスーパーまで買い物に出かける支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設で管理しているが、個人的に持って見える方もある。一緒に買い物に出かけたり、希望の物を購入したりしている。台帳を個々に作成し、月に一度、ご家族の方に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて職員が間に入り、電話を掛けたり、受けたりしている。手紙や荷物など、届いた時にご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・トイレ共に毎日、消毒・清掃し、清潔な空間になるように心掛けている。季節により室温をこまめに調節している。また、冬は掘こたつを設置し、家庭的な雰囲気でも過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格や特徴を理解し、座席の位置にも反映している。ホール内や居室の出入りも自由である。自分の意志で自由に過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新品ではなく、自身の使い慣れたものを持参して頂くよう事前をお願いしている。写真など個々に大切な物を居室に置いて頂き、安心して生活をして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3ヶ所あるトイレも毎回同じ場所に誘導し、一人でも迷うことなく行動できるように心掛けている。居室内の物の配置なども本人の好みに留意し話をし、安全に過ごせるように努めている。		